

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名 令和6年度第4回本人中心部会

開催日時 令和7年2月13日(木) 13:30~15:30

参加者所属機関名

中野市心身障害者共同作業訓練施設竹馬、りんごの本共同作業所、中野市びあワーク就労支援施設、マッシュルーム、クローバー、のぞみの郷高社、常岩の里ながみね、ほくしん圏域就業・生活支援センター、ふっくら工房ふるさと、ももの本、つくしの家、北信圏域障害者総合相談支援センター(事務局)

本日のテーマ、課題等

① 他部会の活動状況 ② 令和6年度のまとめ ③ 本人中心部会の今後について ④ その他

1. 開会

2. 他部会の活動状況報告

- ・ サービス向上部会…研修会のお知らせ。
- ・ 権利擁護部会…1/14に開催した虐待防止研修の様子をYouTubeで配信中。是非ご覧いただき、各事業所の研修会等のご活用いただきたい。

3. 令和6年度のまとめ

- ・ 今年度の部会活動の振り返りが行われ、以下の点が確認された。
 - 部会発足当時は、障害福祉サービスや制度が十分に整備されておらず、地域における「本人中心」の支援体制の充実を目的として活動してきた。
 - 現在では、制度や福祉サービスの発展により、相談支援体制の中で本人中心の支援が提供されることが当たり前となり、部会の役割が曖昧になっている。

4. 本人中心部会の今後について

- ・ 部会の存続や今後のあり方について以下の意見が出された。
 - B型事業所の集まりを雇用支援ネットワーク部会の個別支援委員会へ移行する案があったが、雇用支援ネットワーク部会では一般就労への支援や就労選択支援を主軸としているため、本人中心部会の活動を継続することは難しい。
 - そもそも部会に参加する人が少ないことが問題であり、目的や意義を明確にする必要がある。
 - 協議会から本人中心部会をなくす方向で良いのではないか。
 - サービス向上部会に日中活動事業所(B型・生活介護など)が入る形を検討してはどうか。
 - 協議会の各部会が重要であることを事務局から意識付けし、事業所のトップに対して部会への人員派遣を促す働きかけをすべきではないか。
 - 解散ではなく、休止という形にする案もあるが、休止は分かりにくいので明確にすべき。
 - 任意団体として活動を継続する案についても検討。
 - 1年間任意団体として活動し、その後振り返りを行う形をとるのはどうか。
 - ただし、任意団体での継続には事務局の存在が不可欠であり、運営の継続が難しくなる可能性がある。

- 任意団体にした場合、さらに参加者が減る懸念がある。
- 各日中活動事業所の意見や課題を吸い上げる部会を新たに設けるべきではないか。
- 各部会の研修会に本人中心部会のメンバーが参加する形をとることも一案。

5. 結論

- 地域の支援体制が充実してきたことを踏まえ、本人中心部会は解散することとする。
- ただし、最終会議の参加者が過半数に満たなかったため、欠席者にも解散の可否について確認を行うこととする。

6. その他

- 部会解散後の移行については、各部会の役割を見直しながら適切な形で機能を引き継ぐ。